

熊本大学大学院自然科学研究科
Graduate School of Science and Technology

MOT

特別教育コース

2017

MOT

MOT (Management of Technology : 技術経営) とは「技術に
立脚する企業・組織が技術革新により新事業を創出しその持続的
発展を実現するためのマネジメント」を意味しています。

MOT

技術経営力能力を持つ 研究開発リーダーの育成

MOT (Management of Technology) 特別教育コースは、大学院自然科学研究科において1年間の集中講義形式かつノンディグリープログラムとして、特に少数精鋭教育を重要視し、定員15名程度として、平成18年4月に開設しました。

経済学というと、米国におけるMBA (Master of Business Administration) がよく知られていますが、このMOTはその理工系バージョンであり、「技術のわかる経営者育成」を意味したわが国独自のことで、「技術経営」とも呼ばれます。一般的には最先端技術の商品化・事業化、生産管理の技術革新など、「技術」を「ビジネス」としてとらえた経営のことを言います。具体的には、企業内の技術や知識を新たな体系に組みなおし、客観的に市場を調査することによって、企業の独自技術、潜在的能力を発見し、それを有効的に活用することです。今日では知識資本主義ということばが広く知られていますが、技術を創造する知識は、企業においても、経済全体においても重要な位置を占めています。また、技術の創造をどのようにマネジメントするかが非常に重要な課題となっています。技術経営は、技術を事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、持続的発展を行うための経営であり、グローバルな技術革新がビジネスの前提を変える事業環境の時代に不可欠な経営手法であるといえます。

本コースは全体としては、経営の基礎理論から、技術経営の実践、および多くの演習やディベートを網羅した全7科目8単位を用意しました。講師陣には、経営学の専門家や海外での実務経験を含め、第一線で活躍中の経営者からなる方々をお迎えしております。熊本に居ながらにして、技術のわかる経営者になるために必要な知識を得ることができます。必修5科目6単位を含む7単位以上を修得することで、修了証が授与されます。



MOT特別教育コース長
連川 貞弘 つれかわ さだひろ

教育目標

- マネジメント能力を持つ技術者の育成
- 国際競争力を持つ技術者・経営者の育成

- I 実践的なニューリーダーの育成を目指す
- II MOT実践経験豊富な講師によるマーケティングや研究開発マネジメント等の講義を行う
- III 国際的に活躍中の若手起業家による経験談やケースディスカッションを通してイマジネーション、クリティカルシンキング能力の開発を重点的に行う
- IV 受講生が取り組んでいる修士論文研究などをベースに事業計画を作成する演習を行う

カリキュラム／講義内容

	講義名	担当講師	単位数	
			必修	選択
■	MOT 概論・基礎編	瀬戸 英昭	1	
■	MOT 概論・応用編		1	
■	実践 MOT	瀬戸 英昭	2	
■	プロジェクトマネジメント	柿崎 平	1	
■	生産マネジメント	前川 幸二	1	
■	企業経営概論	森山 英治		1
■	ベンチャー企業論	藤井 健太郎		1
		小間 裕康		
		納富 貞嘉		
		入江 英也		
		松尾 洋		
計			6	2

M O T 概 論

■ 基礎編

- ・学ぶ技術・考える技術
- ・ロジカルシンキング&超ロジカルシンキング
- ・イノベーションとマーケティング
- ・経営戦略論入門
- ・イノベーションの方法論
- ・ワークショップ ～クリエイティブに考える第1歩～「観察の技法入門」

■ 応用編

- ・演習 ～全体観を持って俯瞰する～「戦略は空雨傘で体系化する」
- ・ケーススタディ 「業界を俯瞰する」
- ・演習 ～市場や業界の概況把握～
- ・特許入門
- ・行動観察入門
- ・ビジネスプラン作成の第1歩
- ・ワークショップ ビジネスモデル・ジェネレーション「ビジネスモデル・キャンバスで仮説を構築する」

M O T 特 論

■ ベンチャー企業論

学生時代に起業した若手経営者5名による公開講座「実戦アントレプレナー養成塾」

■ 企業経営概論(数字で読み解く経営入門)

技術者が身につけておくべき財務諸表の読み方など

■ 生産マネジメント

日本が世界に誇る生産方式/企画原価など

■ プロジェクト・マネジメント

プロジェクトの技法と実践事例

P B L

■ 実践MOT

「思いのマネジメント」に軸足を置いて、デザイン思考、バリュー・プロポジションキャンパス、ビジネスモデルキャンパス等を活用し、グループ討議によりビジネスプランを作成する

修 了 要 件

MOT特別教育コース全8単位のうち、必修5科目6単位を含む7単位以上を取得すること。修了したものには、修了証を与える。

※本コースで修得した単位は、大学院自然科学研究科の修了要件に含まれません。
(「MOT概論・基礎編」を除く)

※ クリエイティブ・マインドセット・セミナー、GJEC科目(デザインマネジメント/産業特論「グローバル競争の現状を知る」など)の聴講をあわせてお勧めします。

担当講師・講義内容紹介

担当科目

①MOT概論 ②実践MOT



瀬戸 英昭 せと ひであき

熊本大学 くまもと地方産業創生センター
特任教授

イノベーションを創出するために身につけておくべき「基本的な武器」について学びます。「思いのマネジメント」に軸足を置いて、講義や演習、ケーススタディ、ワークショップ、PB L等を通して実践に役立つ能力を養成します。ロジカルシンキング、人や社会に対する「気づき」力、「デザイン思考」、「システム思考」「ダブルループ学習」、「U理論」、「ビジネスモデルキャンパス」、「リバースブレインストーミング」などの武器を活用しながら、シンセシスを養成します。

担当科目

プロジェクトマネジメント



柿崎 平 かきざき たいら

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門
産業革新コンサルティンググループ 部長/プリンシパル

プロジェクトマネジメントの基本的考え方と主要な手法について講義する。特に、事業創造、イノベーション、組織変革、リーダーシップといった観点からプロジェクトマネジメントの本質を考えていく。

担当科目

生産マネジメント



前川 幸二 まえかわ こうじ

アイシン九州株式会社 自動車商品事業部
技術員室 室長

製造業に関わる生産マネジメントで、「ものづくり」における基本的考え方を十分理解した上で、一般的な生産方式との違いを見分け、効率的・効果的な生産方式での具体的な進め方を習得し、実際の生産現場を見学しながら、講師の実体験と具体事例を取り入れながら講義をおこなう。

担当科目

企業経営概論



森山 英治 もりやま えいじ

森山税理士事務所
所長

財務諸表の内容・構造や主要な経営指標等を解説し、設例等を用いて経営判断に役立つ財務情報を読み解いていきたいと思っています。

担当科目

ベンチャー企業論



藤井 健太郎 ふじい けんたろう

株式会社データ復旧センター 代表取締役社長

1976年生。山口県出身。18歳にて学生起業し、個人事業を開始。パソコンレスキュー(現:データ復旧センター)を立ち上げ後、マサチューセッツ工科大学経営大学院EMOT課程を修了。中小企業庁長官賞、アントレプレナー大賞など、受賞歴多数。月間300万人が利用する「データ便」を始め複数の人気サイトを持つ。事業の着想から実行、事業拡大時及び縮小時に起こりうる可能性の高い問題点、銀行借入れ、営業、資金調達等を実体験を元にお伝えします。

担当科目

ベンチャー企業論



小間 裕康 こま ひろやす

GLM株式会社 代表取締役社長

GLMは重厚長大な自動車産業に参入し、日本で唯一、自社開発による電気自動車の量産を成功させたベンチャーです。自身の取り組み事業を実例に、ものづくりベンチャーの起業時の課題と解決策をお話します。創業時の意思決定のポイント、事業運営における不確実性への取り組み、リソースが無い中での資本政策などを取り上げます。

担当科目

ベンチャー企業論



納富 貞嘉 のうとみ さだよし

株式会社Fusio 代表取締役社長

九州大学工学部卒業、九州大学大学院修了。大企業や外資系コンサル企業の内定を得るも、在学中にITコンサルティング、システム開発で株式会社Fusioを起業し今に至る。企業の選び方や、起業の話、会社経営におけるモチベーションやお金の話など、学生に近い目線でお伝えできればと思います。

担当科目

ベンチャー企業論



入江 英也 いりえ ひでや

株式会社ユウシステム 代表取締役社長

ベンチャー企業論のアジア版として、海外(特に中国、ASEAN)で会社を経営することのメリット/デメリットをわかりやすく講義します。

担当科目

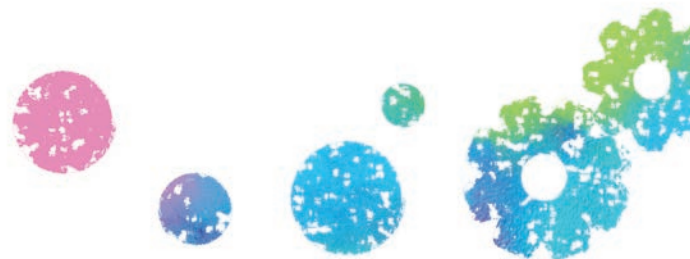
ベンチャー企業論



松尾 洋 まつお ひろし

株式会社くまもと健康支援研究所 代表取締役社長

熊本大学発健康ベンチャー企業として2006年に株式会社くまもと健康支援研究所を設立。県内外の市町村、健康保険組合の健康づくり事業に従事するとともに、医療機関と連携した新たな健康づくり事業である医商連携まちづくり「うえきモデル」を構築。成長分野に期待される医療・介護連携産業分野における企業の経緯、起業後の課題解決方策など、体験談を中心にベンチャー企業について講義を行います。



募集要項

一般の方

一般の方は、本学科目等履修生として入学いただきます。

科目等履修生の出願要項に従い、出願手続きを行ってください。

※科目等履修生とは大学の学部や大学院において、一又は複数の授業科目を受講する制度です。履修した授業科目について単位を修得することができます。

■ 出願資格

次のいずれかに該当する者又は入学までに該当見込みの者

1. 大学を卒業した者
2. 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
5. 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
6. 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
7. 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
8. 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
9. 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの ***要事前相談**
10. 大学に3年以上在学した者であって、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
11. 外国において学校教育における15年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

■ 出願手続

入学志願者は、次の書類等を取りそろえ、出願期間までに持参または郵送により大学院教務担当(MOT特別教育コース担当)へ提出してください。

1. 入学志願書：所定用紙(出願要項に付属) *写真縦 4cm×横 3cm を貼付
2. 卒業・修了(見込)証明書：最終学校のもの
(大学を卒業した者は、卒業大学とそれ以降の全ての証明書について提出)
3. 成績証明書：最終学校のもの
(大学を卒業した者は、卒業大学とそれ以降の全ての証明書について提出)
4. 検定料受付証明書貼付台紙：検定料 9,800 円(出願要項に付属)
5. 住所票(出願要項に付属)

■ 受講料

検定料：9,800 円 入学料：28,200 円 授業料：1 単位あたり 14,800 円

※修了には最低141,600円がかかります。

■ 出願期間

前学期(4月)入学：平成29年2月15日(水)～2月16日(木) 必着

後学期(10月)入学：平成29年6月20日(火)～6月21日(水) 必着

■ 出願を満たすか判断できない入学志願者の事前相談

前学期(4月)入学：平成28年12月26日(月)まで

後学期(10月)入学：平成29年4月27日(木)まで

本学大学院生

■ 出願資格

自然科学研究科博士前期課程在籍の者

■ 出願手続

募集期間中に大学院教務担当(MOT教育コース担当)へ履修申請を行う。

■ 受講料

無料

■ 出願期間

平成29年4月17日(月)～4月28日(金)

問い合わせ先

熊本大学大学院自然科学研究科 MOT特別教育コース

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学教育研究推進部

自然科学系事務課大学院教務担当

TEL / 096-342-3017

FAX / 096-342-3509

E-mail szk-project@jimu.kumamoto-u.ac.jp

URL <https://www.fast.kumamoto-u.ac.jp/gsst/mot/>